Kyoto City Child Rearing Support Center Kodomomiraikan

京都市子育て支援総合センター
こどもみらい館
研究・研修だより

かがやき

Vol.17
2009.
11月

平成21年度 共同機構研修会 第2回 ―― 平成21年7月8日（水）
京都市保育士会共催

ちょっと気になる子どもとは

～育ち合う集団づくりのために～

講師　服部 敬子　京都府立大学准教授

京都府立大学公共政策学部福祉社会学科准教授。専門分野は発達心理学・保育学。研究テーマは，子どもの自我の発達と集団づくり。主な著書は「幼児が『心』に出会うとき」（共著），「育ちあう乳幼児心理学」（共著），「保育計画のつくり方・いかし方」（共著），「人と生きる力を育てる－乳児期からの集団づくり」（共著）他。

すべての子どもにはヒトとして共通する発達のすじみちがあり，生活年齢に基づく身体的，心理的な発達への願いをもっています。何らかの障がいがあるなどしてその発達の願いが実現できない時，子どもは困った行動をとったり本心とは違う要求を出したりと，“気になる”姿を見せてきます。子どもが表している姿の中にどのような願いがあるのかを汲み取るには，それぞれの年齢でどのような発達的特徴があり願いをもっているのかを理解し，障害に対する知識を深める必要があります。そして保護者との関係を築き，保育の中での姿を丁寧に見ていくことが大切です。

“気になる”子どもは乳児の頃から見られるとは思いますが，３歳児後半から４歳児クラスで問題が顕著になります。それは，集団の中での自己コントロール力や自制心が育つ４歳半ばの発達の節においてのつまずきが，個別ではなく集団の中での課題として見えてくるためです。

子どもたちは，他者との共感と受け止められる実感があって初めて，自分は自分であっていいと思える，人のことを頼りにできる「自己信頼性」を培っていくことができます。大好きな大人からの受け止めと同時に「友だちと一緒だと楽しい」と実感できる経験が必要です。しかし４歳半ばの発達の節につまずきがある場合，イメージやルールを共有する遊びで友達と一緒に楽しむことが難しくなりがちです。保育者は，枠組みのあるごっこや「技」への挑戦をしかけたりして，周りの子どもと一緒に考えながら活動を展開し，見せ合い，教え合い，認め合う機会をしっかりと位置づけ，相手のことを「注意して見よう，聞こう」とする気持ちが引き出されるような集団づくりをしていくことが大切です。

しかし，このように対応していくには保育者一人では困難です。園内で共有して取り組んでいく必要があります。子どもの姿や問題点を共有するには，丁寧に子どもの記録をとり，それに対する自分のねらいや働きかけを自覚し，発達に対する丁寧な理解が求められます。

この講演会のビデオ・DVDを貸出しています

平成21年度 共同機構研修会 第3回 ―― 平成21年8月5日（水）

京都市保育園連盟共催

乳幼児期に大切にした心の育ちと保育者の役割

講師　遠藤 利彦　東京大学大学院准教授

東京大学大学院教育学研究科准教授。専門分野は発達心理学，感情心理学。特に親子関係・家族関係と子どもの社会情緒的発達との関連性について研究。主な著書「アタッチメントと臨床領域」（共編著），「発達心理学の新しいかたち」（編著），「アタッチメント：生涯にわたる絆」（共編著），「喜怒哀楽の起源：情動の進化論・文化論」（単著）他。

安全の感覚が確保され，初めて健常な発達や適応的な日常生活が保障されることから，誰かにくっついて安心感を得ようとする愛着は，子どもだけではなく，人間の生涯を通して重要です。愛着対象の条件として，子どもに身体的･情緒的ケアをし，子どもの生活において連続的かつ一貫した存在であること，子どもに対して情緒的な投資を行うことがあげられ，保育者はこの条件を全て満たしているので，子どもの主要な愛着対象であると言えます。

また，子どもが保育所や幼稚園で経験する大人との関係や，その大人を通しての他の仲間との関係は，生涯を通しての人格の発達や適応性に関わります。保育所・幼稚園での子どもの経験，大人との関わりは，適応性の基礎が築かれるところが大きいのでとても重要です。保育所や幼稚園は家庭での子育てを援助するだけでなく，子どもの育ちの場になっているという意識を持つことが必要です。家庭とは異質なものとして存在している意味はとても大きく，そこで子ども一人一人がどういう経験をするかが大切です。保育の質を高めると，子どもの発達は長期的な意味でプラスの方向にむいていくという意識を，保育者には持っていただきたいと思います。

子どもとの関係の基本は，子どもを見守り，求めてきたときには子どもの感情を調節することであり，大人は避難所・安全基地であることが望まれます。そして，適度な欲求不満が子どもの自律的な成長・発達の鍵になることから，大人と子どもとのかかわりにおいては完璧ではなく，ほどほど・ほどよい関係が，基本的に子どもの発達にプラスに働くことがあるということを持ち帰っていただきたいと思います。

平成21年度 共同機構研修会 第4回 —— 平成21年9月11日（金）

京都市私立幼稚園協会共催

保幼小連携と保育内容の充実

講師　民秋 言　白梅学園大学教授

白梅学園大学・同大学院教授。保育所保育指針改定に関する検討委員。専門分野は保育社会学。「保育内容」「保育者の専門性」「保育ニーズの多様化」をキーワードに研究。主な著書は，「保育原理－その構造と内容の理解－」「保育者論」「幼稚園教育要領・保育所保育指針の成立と変遷」他。

今の私たちの課題は，みんなで手をつないで「いい子」を育てることです。ここにいう「いい子」とは，心身ともに健やかに育っている子ということです。心と体の健やかな育ちをはかっていくためには，まず保育所や幼稚園で，子どもの育ちの共通認識がなくてはなりません。子どもたちは小学校から同じ教育をうけるのですから，保育所と幼稚園とが相互理解し発達の捉え方を共通にしておく必要があるのではないでしょうか。

保育では，健康・人間関係・環境・言葉・表現の５領域にそってすすめられていきますから，ただそれによって組まれたカリキュラムのその場面だけで育ちがはかられるものではありません。登園から降園まで，入園から卒園まで在園しているその全ての時間で子どもは育っていきます。領域とは何かというと，子どもの育ちをみる窓口なのです。私たちは５つの窓口を用意して子どもの育ちをみているのです。

保育所や幼稚園が出す子どもに関する情報を小学校と共有し，小学校での子どもの育ちを支えるための資料を小学校に送ることになりました。平均（標準）より上か下ではなく，その子の良いところ悪いところではなく，子ども一人一人がどんな意欲や態度を持っているか，心情，意欲，態度をどのように育てたかということ，育っているところを書いて小学校に送るのです。減点法ではなく加点法によって子どもの育ちを見つけることが，保育者の役目であり専門性といえましょう。このように，子どもの「育ち」を育てみつけ小学校（つまり社会）に伝えることは保育所や幼稚園が，社会の中での存在意義を社会に問う絶好のチャンスだと思っています。そして，みなさんには保幼小の連携ということで，丁寧に小学校の先生とも勉強会を繰り返してほしいと思います。しかし，まずは保育所と幼稚園とが足並みを揃えて，同じ価値観で保育することが必要ではないでしょうか。

この講演会のビデオ・DVDを貸出しています

Topics（トピックス）

第10回「みらいっこまつり」

平成１１年１２月２３日，こどもみらい館が誕生しました。今年で１０歳の誕生日を迎えます。開館記念事業として行ってきた「みらいっこまつり」も１０回を数えることとなりました。共に育んでいただいた皆様と一緒に祝いたいと思います。どうぞ御来館ください。

日時：12月18日（金），19日（土）
場所：こどもみらい館

Information（インフォメーション）

共同機構研修会案内

11/27(金)　定本　ゆきこ　京都少年鑑別所法務技官

児童家庭課・保健医療課との連携講座

案内状発送は11月6日予定，申込締切は11月20日です

「思春期を見通して心の土台を育てる」

いじめや自殺，非行など子どもの育ちにかかわる様々な問題が深刻化する現在，子どもの置かれている環境を改めて見つめ直し，子どもの自尊感情を育むことが大切になっています。思春期を見通し，子どもたちの育ちにかかわる保育者として大切にしていかなければならないことについて学びたいと思います。

1/28(木)　岩田 純一　京都教育大学教授

京都市私立幼稚園協会共催

案内状発送は12月4日予定，申込締切は1月21日予定です

「子どもの発達と遊び ～ 遊びを通して育つとは ～（仮題）」

今回の幼稚園教育要領，保育所保育指針の改定に伴い，改めて保育者の専門性が問われています。遊びを通して子どもたちが成長していくとの視点を保育者が持ち，子どもたちの発達をふまえた，その時期にふさわしい遊びを展開していくための環境構成と援助，また，そのための保育計画の必要性について学びたいと思います。

2/8(月)　実践研究発表

教育委員会学校指導課との合同研修会

案内状発送は12月21日予定，申込締切は2月1日予定です

「嵯峨中学校区における保・幼・小・中連携（仮題）」

教育委員会学校指導課の保・幼・小・中連携の指定を受けた保育園・幼稚園・小学校・中学校の実践研究の報告から，保育・教育の相互理解や保護者・地域との連携等について考えていきたいと思います。

編集後記

３０数年前保育の仕事に就いて間もない頃，「現在（いま）は物が溢れてみんなが浮かれているが，この先必ず『心』というものが大事だといわれる時が来る。そのことを覚えていておいて，学問的な知識だけではなく，生きていく為の智恵や正しい心を育てるということを忘れないで仕事をしていきなさい」と教えられました。

その頃は「へえ～そんなものかなあ～」と軽く受け流していたのですが，世の中の流れがどんどん速くなり，心も早く早くと追い立てられ，生きていてよかったとか，人への思いやりという言葉さえ失われつつある社会となってしまいました。

今，目の前にいる子どもたちが幸せな社会で暮らせますようにと願いつつ，これからの時代をしっかりと生きていくための身体の土台と精神（こころ）の土台を，お家の方々と保育者とそして社会の方々と共に育てていきたいですね。

研究・研修部会委員　　山田牧子　（祥豊保育園主任）

子どもを育む喜びを感じ，親も育ち学べる取組を進めます。
（「子どもを共に育む京都市民憲章」より）

発行日　平成21年11月1日
発行者　京都市子育て支援総合センターこどもみらい館
〒604-0883　中京区間之町通竹屋町下る
Tel (075)254-5001　Fax(075)212-9909
ＵＲＬ　http://www.kodomomirai.or.jp